



パネルディスカッション Panel Discussion

1. QS業務の日英比較とグローバルマーケットへの対応

Comparison of QS services in UK and Japan

2. コストマネジメントからプロジェクトマネジメント

へと広がるQS領域

Growing of QS services from

Cost Management to Project Management

2014年4月10日

Q S 業務の日英比較について

Comparison of QS Services in UK and Japan

	QSという言葉/職能の理解
英国	<ul style="list-style-type: none">・ コストマネジメントから契約管理まで幅広く係わる・ コスト管理を軸に、入札・発注調達、工事中の契約管理までプロジェクトを通して一貫して携わる
日本	<ul style="list-style-type: none">・ 一般には、実務では積算、概算、価格交渉等のコスト関連業務が主体・ 日本国内市場では、契約管理に携わる必要性は少ない

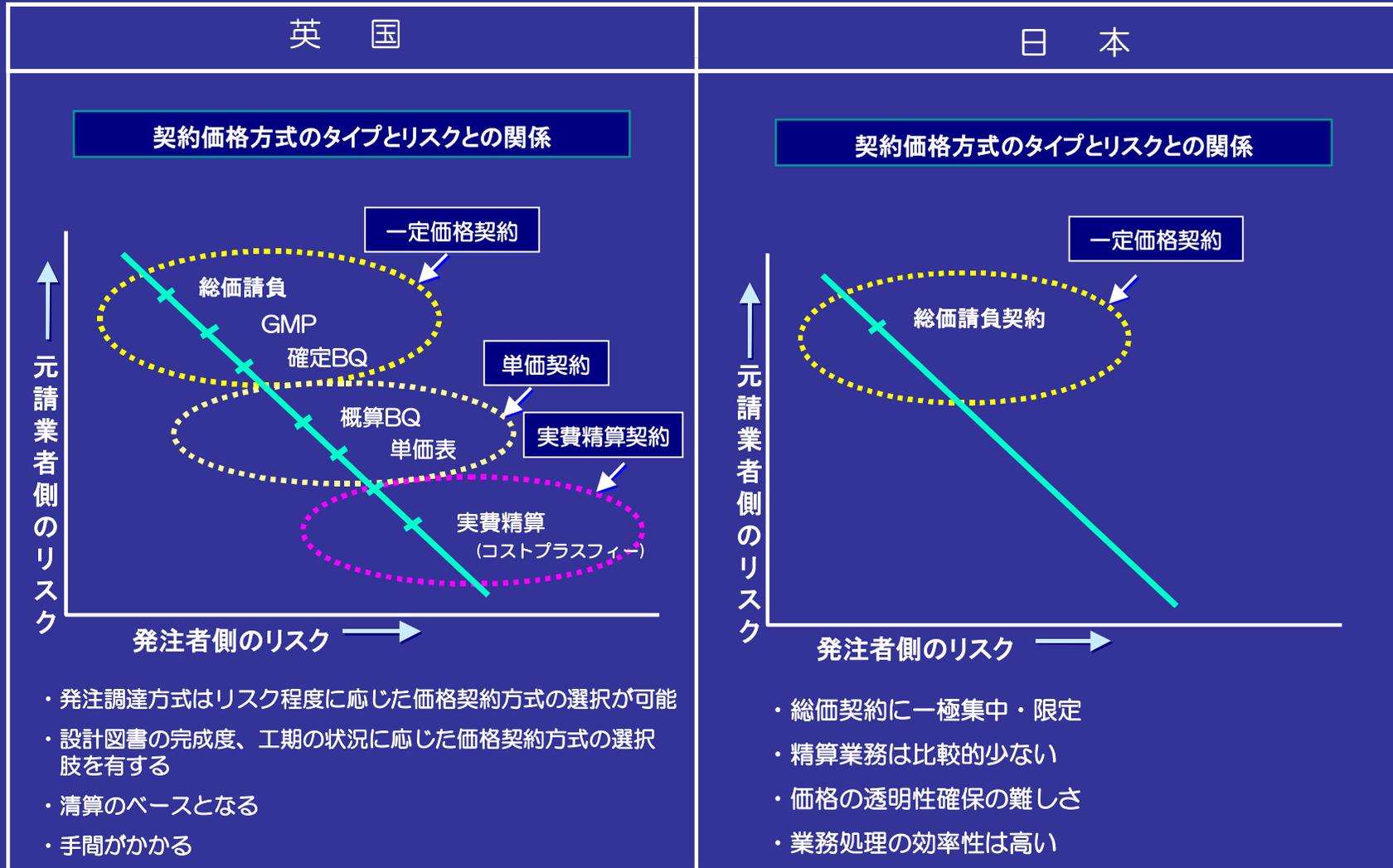
Q S 役割の日英比較

Comparison of QS Roles in UK and Japan

	発注者・社会ニーズへのQSの対応
英国の方式	<ul style="list-style-type: none">・ 価格契約方式の多様性を有する・ 社会ニーズの変化に対応して業務内容も多様化・発展してきた (積算/BQ書 ⇒ コストプランニング(分析・予測) ⇒ 発注調達業務 ⇒ 契約管理)
日本の方式	<ul style="list-style-type: none">・ 価格契約方式は比較的単一的 ⇒ 効率性の確保・リスクの移転・ コスト管理業務に求められるのはスピード・精度・交渉力

価格契約方式の選択肢

Typical Contract Price Arrangement in UK and Japan



英国建設産業の特徴

Features on UK Construction Industry

● 英国(個別対応性が高い) (強み)

- プロフェッショナルの存在 ⇒ 専門家による分業システム
- 個別業務対応密度の高さ ⇒ 手造り対応(顧客ニーズへの対応性)
- ソフトの価値 ⇒ 多様性への対応(最適調達方式の選定)
- リスク負担の公平性 ⇒ 契約管理対応

(課題とその対応)

- プロセスの複雑化 ⇒ 統括リーダーとマネジメントの重要性(PM)
- 手間と期間を要する ⇒ 効率化の要求(ICT)
- 契約クレーム ⇒ 信頼性・パートナーリング ⇒ 責任の一元化
(D&B、PFI・PPP, Prime Contract)

両国建設産業の国際市場への対応

Approaches to the Global Market by UK and Japan

英 国	日 本
<ul style="list-style-type: none">● 海外市場への積極的展開とプロフェッショナルの存在● マネジメント（脱請負）志向<ul style="list-style-type: none">・ 多様な事業手法を活用 e.g. PPP / PFI, BOT (M&A)● 上流志向 PM/CM（プロマネ能力の活用）● 下流志向 コンセッション● 国際スタンダード（英国式）の活用<ul style="list-style-type: none">・ 旧英連邦国等における契約管理・ 英国方式ドキュメントの汎用性	<ul style="list-style-type: none">● 建設工事技術力（ハード面）の強みを生かす● 工期の厳守のメリット <p>（課題とその対応）</p> <ul style="list-style-type: none">● 収益性を高める必要 国際コスト競争力・調達力の強化● 請負リスクマネジメントの重要性● グローバルスタンダードへの対応力● 現地情報収集・調査・企画能力● 国際契約管理・運営等への対応● 海外対応人材（PM）の育成